

「大川の駅」ニュース

創刊号
令和6年4月発行

「大川の駅」整備・運営事業 事業者の公募が始まりました。



事業者の公募を開始

令和6年2月29日に事業者の公募を開始しました。市HPで、事業者が提案する事業費の上限価格（これを「提案上限価格」といいます。）などを定めた募集要項のほか、施設・サービスの水準について定めた要求水準書を公表しています。

今後は、令和6年12月（予定）の優先交渉権者の決定に向けて事業者の選定を進め、令和10年3月の開業を目標に事業を進めます。

施設整備費提案上限価格 約42億円

「大川の駅」整備・運営事業では、施設整備費の提案上限価格を約42億円と設定しました。

事業者には、この提案上限価格内で要求水準書に定める水準を満たした提案を求めており、事業者の創意工夫を活用して、効率的・効果的に「大川の駅」事業を行います。

開業までの流れ（予定）

令和6年
2月

事業者
の公募

選定

令和6年
12月

優先交渉権
者の決定

本契約

令和7年度～

設計・建設

令和10年3月
開業



「大川の駅」事業に関するQ&A

Q: 「大川の駅」事業の目的は何ですか？

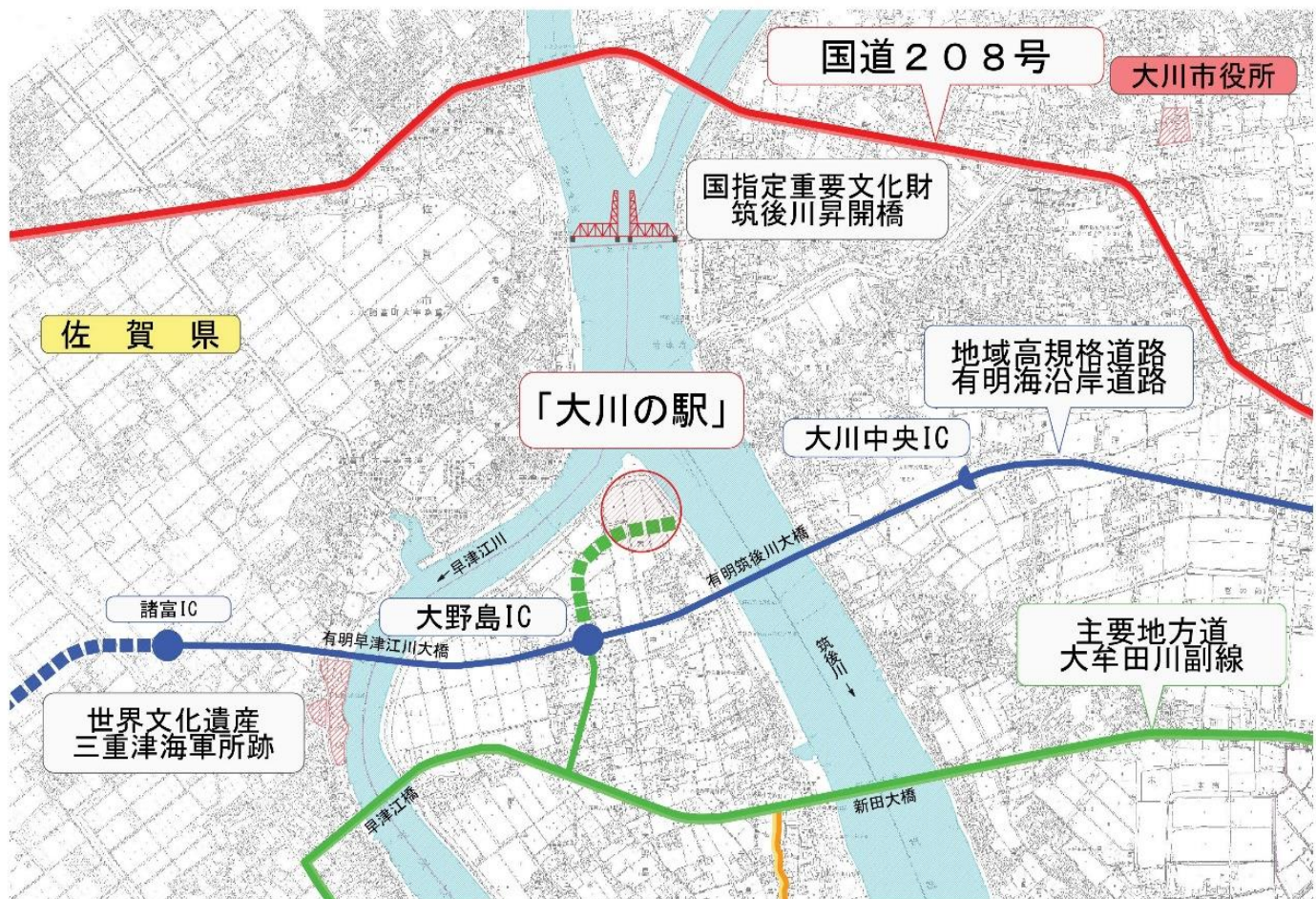
A: 人口が減少し活気が失われつつある中、「賑わい」を創り出し元気なまちにするため、また、高齢化が進む中、まちの「稼ぐ力」を強化するため、国内外からの集客拠点をつくり、後世への贈り物とすることが「大川の駅」事業の大きな目的です。

Q: 「大川の駅」の場所はなぜ大野島に決まったの？

A: 「大川の駅」を国内外からの集客拠点とするためには、
・市外からのアクセスがよいこと
・来訪者にとって、居心地よく、快適に滞在していただける場所であることが重要なポイントとなります。

大野島の現整備予定地は、有明海沿岸道路の大川市内で唯一のフルインターから数百メートルという距離であり、九州佐賀国際空港からも近い場所になります。

また、大川市の発展を支えてきた筑後川の河岸に位置し、目の前には筑後川昇開橋や、デ・レーケ導流堤、宝島、奥には脊振山、耳納連山、雲仙普賢岳などを眺めることができる眺望のよい場所です。



「大川の駅」整備予定地

「大川の駅」のPRを実施

令和6年2月25日（日）に大野島で開催された第37回大川木の香マラソン大会において「大川の駅」のPRを行いました。

10kmコース途中の「大川の駅」整備予定地に「大川の駅」のぼり旗を立てて、沢山のランナーを応援しました。

